

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風(東)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193100050-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193100050-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年12月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよ風は、隣接の小規模多機能と小規模特養との3施設合同で、職員・利用者様同士相互に協力し合い、地域の方々にも参加して頂ける行事を開催しています。恒例となった合同夏祭りや、今年度からは認知症カフェ(カフェ・トライアングル)も始めました。地元自治会とは、防災協定を締結しており、地域の防災訓練や、防災会議などに参加して、相互に支え合う体制を取り入れています。また、母体が医療法人である為、利用者様の健康管理へ助言や、適切な処置などを素早く受けることが出来ます。その中で、私達は、利用者様が住み慣れた地域の中で、穏やかにほほえみのある暮らしが出来るよう、日々、より良いケアが出来るように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が長く暮らし続けた土地で、家族や馴染みの友人、知人と繋がりを持ち続けられるよう支援している。また、同法人が運営する隣接施設の利用者とも交流を行なっている。運営推進会議には、地域代表や行政等が出席する中、多くの家族も参加し、利用者が心穏やかに暮らせるよう、様々な課題について話し合っている。また、母体法人の代表が医師であることから、適切な医療体制のもとに支援が行われ、全職員と関係者が、現在の利用者の状態を少しでも長く維持できるよう取り組み、家族の安心につなげている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員が見やすい位置に掲示して、その理念が日々のサービスに活かす為、ケア会議などで日々のケアを振り返り、職員が理念を確認し実践につなげるようにしている。	理念は「住みなれた地域の中で、ほほえみのある穏やかな暮らしを支え合う」を掲げ、玄関や職員の目に付きやすい場所に掲示している。理念に基づく取り組みを職員会議で振り返り、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会と、防災協定を締結して、非常時には相互に支え合う関係として位置付けている。地域の防災訓練への参加や、市内高齢者対象の運動会への参加、地域のこども神輿・小学生の交流訪問などもあり、地域の一員としての交流を持っている。	自治会の会報や運営推進会議で、地域行事の連絡を受け、公民館行事、夏祭り、地域コミュニティ事業に参加をしている。また、小学生の訪問もあり、利用者との交流を継続している。地域の防災訓練に参加し、自治会とは、相互に支え合う防災協定を締結している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の夏祭りや秋祭りには、近隣の小学校・公民館などにポスター掲示して頂いたり、自治会を通じてチラシを回覧して頂くなど、地域の人々と交流を持てるように努めている。3施設合同の認知症カフェも始めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、隣接の小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。会議では、サービスの実践や活動状況を報告しており、地域の神社の祭り、公民館まつりなどの情報なども頂いている。また、認知症カフェの開催にもつながっている。	運営推進会議には、行政、民生委員、地域代表者、家族、利用者等の参加があり、行事報告や今後の取り組みなどで意見交換をしている。また、自治会からは、今年の初詣には、車椅子の利用者も、安心して出かけられるよう、手配が整っているとの案内を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者・地域包括職員には、運営推進会議に参加して頂いており、施設の活動状況を施設のお便りなどを基にわかりやすく報告している。市の介護相談員の訪問もあり、サービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう努めている。	日常的に、行政とは連絡を密にし、情報交換を行なっている。認知症カフェの運営の際には、助言を得たり、運営推進会議の場でも、介護保険の動向などで説明を受けている。行政主催の会議には積極的に参加し利用者サービスの向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年次計画の中で、ケア会議において身体拘束について研修する機会を持ち、職員が正しく理解できるように努めている。改善や工夫をして安全面に配慮し、日々見守りを行いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロの指針を基に、定期的に職員研修を行っている。拘束に該当する場面を想定しながら、職員間で話し合い、正しく学び、理解を深めている。緊急時の止むを得ない場合は、速やかに会議を開いて検討し、工夫することで、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年次計画の中で、ケア会議において高齢者虐待について研修する機会を持ち、職員が正しく理解できるように努めている。職員は利用者様の心身の状況・ケアの状況に常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年次計画の中で、会議の中で権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設け、職員が正しく理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者・家族に契約内容や、ケアに関する事業所の取り組みや理念をわかりやすく説明し、理解・納得して頂くよう努めている。改定の際には、改定内容を事前に十分説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の合同意見交流会を、年に一度開催しており、ご家族の不安や、思いをお聞きしたり、ご家族同士の交流の場にもして頂いている。ご家族からの意見や要望が、気軽に職員に伝えられる雰囲気づくりに努めている。	家族の合同交流会、家族会があり、意見や要望を聴く機会を多く設けている。火災訓練や感染症予防の対策についても報告をしている。家族からは、利用者の重度化や看取りについての質問や意見が多く、詳しく説明を行ない、理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日常の勤務の中で、職員からの意見・要望などを汲み取りやすいよう、要望意見書箱を設けている。職員の勤務に対する不安などに対しても、代表者が個別に話し合う機会を設け、運営に反映させている。	管理者も職員と共に現場に従事し、日頃から、職員の意見や要望を聴き、出来ることから迅速に改善している。職員は、勤務時間の希望、より良い利用者サービスへの提案等、様々な相談や発言ができる環境にあり、定着率も良い。	職員の提案から、居室の掃除や食事作りなどに、利用者自身が役割を持って関わることが、本人の状態維持と自立のために必要だと捉え、現在、支援体制や方法を計画中である。その実践に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議にも参加し、今まで培ってきた施設運営を反映できるように現場に顔を出したり、情報収集として職員に個別に対応できるよう努めている。また、キャリアアップのための研修参加を促すなど、職員に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、業務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を設けられている。職員はお互いにスキルアップ出来るように、ケア会議で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修を活用して、経験や役職に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が新しい環境に早く馴染めるように、ご家族・関連機関などから情報収集に努めるとともに、見学時や、事前面談などでも、本人の言葉に出せない思いも引き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談などで、本人・ご家族の困っていること、入所に際しての不安なこと・要望を傾聴し、必要な支援が提案できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、利用者様・ご家族の思いを取り入れた短期ケアプランを作成導入して、新しい環境に早く馴染まれるように段階的な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・掃除・洗濯物片付けなど利用者様が出来ることは役割分担をして手伝って頂いている。また、季節の行事や、地域の習わしなどを利用者様に教えて頂くなど、暮らしを支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、家族会・運営推進会議への参加や、かかりつけ医への受診・馴染みの理美容院への付き添いなどの協力をして頂いている。家族会で、外出支援をお願いするなど、職員とも交流を持ち、共に利用者様を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接の施設の馴染みの方には相互に面会に出掛けるなどをして、関係が途切れないよう支援に努めている。馴染みの理美容院やお墓詣り・スーパーといった場所にも、ご家族のご協力などを得て、出かけている。	親戚や知人の訪問があり、家族とは、美容院、喫茶店、墓参りなどに出かけている。隣接する施設の利用者には知り合いも多く、相互に訪問し、一緒に外出するなど、関係を継続している。認知症カフェでは、新たに馴染みの人もでき、利用者も楽しみにしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について、職員同士申し送りや、記録などで情報を共有している。食事や、レク、くつろぎの時間など、利用者様一人ひとりが楽しく過ごせるよう職員が常に配慮して、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう関係者と連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、職員は利用者様一人ひとりとゆっくり会話をする機会を設け、利用者様の想いや訴えを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合には表情・しぐさなどから職員同士気づきを共有し、思いを汲み取り、利用者本位のケアに努めている。	職員は、常に「寄りそうケア、気づきの介護」で利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は、カードやジェスチャーで内容を伝え、表情や仕草から思いを汲み取るよう努めている。知り得た情報は、職員間で共有し、利用者の希望が叶うよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用施設・担当マネジャーからの情報収集や、利用者様・ご家族との会話の中で利用者様のこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、介護記録・排泄チェック表・水分摂取表等の記録を通して、利用者様一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握していくよう努めている。利用者様の出来る事にも視点を向けたケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族の思いを把握し、本人がより良く生活するために会議でケアについて話し合いケアプランを作成している。利用者様の心身状態に合わせて、医療関係者の意見も取り入れるなどして、ケア会議で、随時ケアプランを見直ししている。	家族の訪問時には、時間をかけて意見や要望を聴き、それらを介護計画作成に活かしている。介護記録を基に、医療関係者、担当職員の意見等を取り入れ、職員全体でモニタリングを行いながら、介護計画を作成している。随時、計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用して、日々の利用者様の様子やケアでの気づきなどの情報を職員が共有し、ケアの工夫や実践につなげ、ケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、職員が個別の物品を購入したり、水分摂取、食事摂取などが少ない利用者様への個別の対応など、その時々柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館や、文化ホールなどの作品展や、認知症カフェなどに個別に出掛けるなど、地域資源を活用して、利用者様が豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望されるかかりつけ医に受診して頂いている。個々のかかりつけ医に連携を取り、必要な医療が受けられるよう支援している。また、定期的に月に2回訪問診療がある。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し、利用者が選択をしている。かかりつけ医受診は原則家族が同行している。協力医は月2回の訪問診療があり、協力医に変更する利用者もある。母体法人の代表が医師であり、医療体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の心身状態の変化を早い段階で法人内の看護師に相談することが出来、個々の利用者様が早期に適切な受診や看護を受けることができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは日頃より相談員との関係作りをしている。入退院時にはご家族等の了承を得て、医療機関との情報交換や連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時には、重度化や終末期に向けた思いをお聞きして、看取りの指針を説明し納得して頂いている。重度化した場合は、家族や医療関係者と共に施設で出来る事を十分に話し合い支援している。	重度化や終末期について、事業所の指針を説明し、利用者、家族の同意を得ている。重度化した場合、早い段階で関係者が十分に話し合いを行っている。終末期については、医師と相談し、家族の希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、勤務時間内で消防署の救命救急講習に参加する機会がある。また、ケア会議において定期的に緊急時の救命救急方法などを勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では年2回避難訓練を実施している。隣接した3施設とは、合同で非常時の緊急連絡体制、救助体制、避難経路をマニュアル化している。自治会と防災協定を締結しており、防災会議や防災訓練にも参加して、非常時の協力体制を築いている。	年2回消防署指導の下、マニュアルに沿い、夜間想定を含めて防災訓練を実施している。職員の配置、誘導方法、連絡網の確認等、詳細な訓練を行っている。自治会と防災協定を結び、地域の防災訓練に参加して連携を整えながら、水害、地震等についても話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修などを通して、職員はプライバシー保護について勉強している。常に、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないよう、カードやジェスチャーを用いたりするなどしてさりげない声掛けや対応に努めている。	職員は、常に利用者の人権を尊重し、人生の先輩として敬う対応で、ケアを行うよう努めている。トイレ、浴室などは、個々の誇りやプライバシーが守れるように設備を整え、各居室に入室の際も、利用者の思いに配慮するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で、利用者様の思いを傾聴するように努め、言葉・表情・しぐさなどからも思いや希望に気づくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けを行いながら、一人ひとりのペースを大切にし、心身に負担なくその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力して頂き、その人らしい季節に合わせたおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、外出や行事の際には、女性利用者様にはお化粧品や、マニキュアなどを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材カット・盛り付け・台拭き・片付けなど、利用者様一人ひとりが、出来る事を職員と共に手伝って下さる。月に一度は希望献立の日を設け、ちらし寿司、赤飯、炊き込みご飯、そば、茶わん蒸しなど利用者様と共に楽しみながら準備している。	共有の間には、対面式のキッチンがある。職員が利用者を見守りながら、食事準備を始めると、自然に、利用者それぞれが、自分のできることに関わっている。今後は、利用者の自立支援の為に、主体的に食事作りができるような方法を話し合い、取り組みを計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量・体重の増減など一人ひとりの状態に常に注意している。水分摂取量が少ない場合は、お好みの温度、好きな飲料の提供をするなどして摂取量増加に努めている。また、夜間も適宜水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の脱着・洗浄・口腔内の衛生管理等のケアを行っている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。食事前・外出前・入浴前・夜間など一人ひとりの心身の状態、自立度に配慮しながらトイレ誘導・声掛け・見守り等行い、排泄の失敗を減らし、自立を促している。	職員のごまめな声かけと誘導で、利用者は、トイレでの排泄が習慣になり、排泄の自立度も高まっている。失敗を減らし、本人が自信を持てるよう支援し、家族の費用負担軽減にも繋げている。夜間は、安全面に配慮し、ポータブルトイレとパッドの工夫で調整を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、体を使うレクなどに参加して頂くよう働きかけをしている。スムーズな排便のリズムが出来るよう、水分摂取の声掛けや、週3回は朝に牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態や意向に配慮しながら、一人ひとりのお好みの順序・湯温で入浴して頂くようにしている。当日の入浴の順番は、浴室入口にわかりやすく掲示している。入浴出来ないときは、手浴・足浴など個々に沿った支援をしている。	入浴は、いつでも入れるよう毎日準備し、利用者の希望に沿っている。週3回の利用者が多く、状態に応じて、清拭や足浴で対応したり、個浴でゆっくりと、コミュニケーションをとりながら、入浴支援をしている。重度の利用者は機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中は出来る限り活動的に過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの心身状態に応じて、入浴後・食事後・外出後の休息を声掛けするなど、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明書については、職員が確認しやすいよう一括ファイルして情報の共有をしている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度記録し申し送りしている。配薬の担当者は、服薬まで毎回確認し記録にチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事・歌レク・裁縫・ちぎり絵など、一人ひとりに合わせた役割・楽しみごとに参加して頂いている。また、季節の行事や誕生会に、ビールや、梅酒など提供し気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に配慮しながら、日常品の買い物にも同行して頂いている。家族会では市外まで外出支援をして頂いている、個別に喫茶モーニングや、スーパーのフードコートでの軽食などにも出かけるなど支援している。	日常は近隣の散歩や外気浴など、利用者の健康状態に合わせて支援を行っている。職員と一緒に買い物や公民館などに出かけたり、外食も楽しんでいる。家族行事の際は、家族の協力を得て外出が実現している。個別の希望には、職員が対応している。	



岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて支援している。個別外出時には、思い思いのお土産などを購入されたりしている。個人の預り金については、ご家族に月に1回は用途を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中はがきや年賀状など、季節のお便りは自筆の絵手紙で出して頂くなどの支援をしている。また、遠方の知人などとの電話のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、カレンダーの飾りや、絵手紙、ちぎり絵などの作品を季節ごとに利用者様と共に作り、掲示している。利用者様は、日中はソファーや食席など思い思いの場所でゆったりとくつろいで過ごして頂いている。食事中は、穏やかな音楽を流している。	広い共用の間は天井が高く、開放的であり、加湿器を設置している。利用者は、ゆったりとソファーで寛ぎ、会話を楽しんだり、作品作りを行っている。壁には季節感のある作品を掲示し、手作りのカレンダーや花を飾り、心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で、ソファーや食席で談笑されたり、新聞や広告を読まれたり、好きな場所に移動して日向ぼっこを楽しまれたり、その人に合った居場所を作れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様に居心地良く過ごして頂けるように、ご家族様と共に安全面に配慮しながら、テーブル・椅子・仏壇・TVなど思い思いの家具が配置されている。また、利用者様手作りの作品や、ご家族との写真なども見やすく飾っている。	各居室には、洗面台、クローゼットが備えられ、広く利用することができ、家具も使いやすく配置している。思い出の写真や作品を掲示し、花を飾り、個性ある部屋づくりをしている。窓から外の景観を眺められ、季節感を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの心身状態に常に気を配り、不安や混乱が生じないような環境を配慮し、利用者様の動線に転倒などのリスクがないよう安全で自立した生活が出来るよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホームそよ風(西)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(西)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、全職員が見られるように掲示し、日々のサービスに活かす為、会議の中で話し合い、小学生の訪問やボランティアとの交流を図り、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の福祉体験、健友会の運動会、地域への外出、夏祭りや秋祭りを開催して地域住民の方と積極的に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事を通じて、子ども達や地域の方に高齢者や認知症の方達との触れ合いの場を提供し、理解を深めて頂けるように努めている。また、行事の際には、ご家族様にも出席して頂き、日々の生活の様子を報告できる場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、小規模多機能と合同で、運営推進会議を開催している。公民館の展示物の見学や、行事や講演などの誘い、助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、地域包括職員には、運営推進会議に毎回参加して頂き、施設の取り組みを報告している。年2回、そよ風だより(写真付)にて、利用者様の状況を伝えて必要に応じて助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議時に、配布資料にて全職員が正しく理解を深められる研修の場を設けている。また、日々の申し送り等でケアを振り返り、次に繋がるような話し合いや改善や工夫を行い、見守りを行う中で身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議時に、配布資料にて全職員が自覚を持ち、正しく理解した上でケアが行えるよう、研修発表を行っている。心身の状況の変化にも日常的に観察を行い敏感になり、ケアの状況のついて職員は常に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修の発表により、職員はより理解を深めている。成年後見制度が必要と思われる方への活用を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくりと分かりやすく具体例を挙げ、理解を図っている。改定時には、内容を説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、意見を頂いている。また、面会時や家族会、お便りで近況を報告し、コミュニケーションを密にすることから、意見や要望を直接にでも言って頂ける関係作りにも努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に運営者も参加しており、職員の意見に耳を傾け、時にはアドバイスを頂いている。日常の勤務の中で、職員が気になることがあれば、代表者や管理者が個別に話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、今まで培ってきた施設運営を反映できるよう、現場に顔を出したり、情報収集を行い個別に聞き取り対応を行うことを常としている。また、キャリアアップの為に研修参加を促し、職員に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、勤務時間内に法人内外の研修に参加する機会が設けられている。また、互いのスキルアップの為に、ケア会議内で研修報告を行い、職員全員が学べる場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修に参加し、そこでの同業者のネットワーク作りや交流を図る機会があり、サービス向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活により早く馴染んで頂けるよう、関連機関等から情報収集を行い、ご本人様の要望や不安、困っている事を傾聴しサービスの提供に活かしている。日々のコミュニケーションからも安心感を与え、声掛けを入念に行い信頼感を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学时、ゆっくりお話しをする時間を設け、見学しながら本人やご家族様の不安等を傾聴することに心がけている。観察、会話等から必要なサービスを見極め、こちらからも現状をお聞きしたり、最善のサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の思いを再確認し、まずは生活に慣れて頂くことからケアプランを短期間の目標設定として作成導入し、必要に応じて段階的に支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事や洗濯物を干す畳む等できることを役割分担し、手伝って頂いている。利用者様より、四季折々の行事や地域の習わし等教えて頂き、おはぎ作りや五平餅作りを共に行い、共有し支え合う関係作りができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、日頃から面会時の会話を大切にしており、運営推進会議への参加や通院、美容院への付き添いをお願いすることも多い。また、外出や外泊に行きやすい関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた美容院へ行かれたり、ご家族様との外出を楽しまれたり、利用者様がご家族やご兄弟へ宛てた葉書(年賀状含む)をお送りしたりと、住み慣れた場所や馴染みの人との関係を途切れさせないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等、気の合った方同士を配置し、また、職員も間へ入り誰もが孤立することなく、多くの会話を楽しみ関わりを持てるよう工夫をしている。役割分担も皆様が気持ちよく同じだけのお手伝いをして頂けるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動にて契約終了後も、お見舞い等必要に応じて行い、本人とご家族様に経過をフォローできるよう、関係者との連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様との会話や表情の変化から希望や意向を確認し、時には不満の訴えにも傾聴し把握に努めている。意思疎通が困難な方には、表情や仕草の観察をより重点的に行い、ご本人様の気持ちの汲み取りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から、これまでの生活歴や趣味、得意だったことを情報収集し、また、ご家族様からも生活の様子や内面等お聞きし、レクリエーションに取り入れたりして、有する力を発揮しながら自分らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握理解し、基本とした上で出来る事への参加を促し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の要望や気持ちをしっかりと聞きし、反映するためにケア会議で職員同士が意見交換を行い、ケアプランの作成に努め、利用者様の状態により、その後のケアプランの見直し、検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、食事、排泄等の身体的状況、本人の言葉や職員の気づき等を記載し、職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。また、特変があった場合には、個々に別の記録用紙を用意し、職員間で共有又は医療連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の状況に応じて、通院や送迎が必要な方の支援、個別の必要物品の検討や購入、ミキサー食への変更等、柔軟な支援に努めている。また、食事の席も気の合う方同士を近くしたり、利用者様の状況に応じて席替えなども検討し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のイベント時に、地域のボランティアグループを紹介して頂いたり、地域の公民館祭りや市民会館での催し物に個別支援で出かける等、利用者様が地域で楽しみのある豊かな生活を営めるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望されるかかいつけ医に受診して頂いている。かかりつけ医と連携を図り、必要な医療を受けられるよう支援している。また、定期的に歯科訪問診療に来て頂いたり、法人の協力医とも連携体制を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、日頃の健康管理や医療面の相談、助言を頂き、支援に繋げている。状態に変化がある時は、看護師に報告し適切な医療や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは、日頃より関係を取っており、入退院時には、ご家族様の了承を得て、こまめに連携しあい、早期に退院ができるよう体制を整え、支援ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会の席で、終末期に向けたご家族様の思いをお聞きし、施設で出来ることの説明と質疑応答を行っている。重度化した場合には、ご家族様や医療関係者と施設で出来ることを密に話し合い、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や消防署の救命救急講習に定期的に参加し、ケア会議で緊急時の対応法について学びを深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、消防署の協力を得て、通報、誘導、消火器の使用法等の訓練を行っている。地域の防災訓練に代表の職員と利用者様で参加し、実際に施設から公民館までの避難経路を歩き、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修にて、学びを深め再確認し、利用者様の気持ちに寄り添い、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の外出や誕生日会等、少しの選択枠ではあると思うが、利用者様の要望にできるだけ対応するように努めている。また、日常生活からコミュニケーションを密に図り、広告を見ながら会話を楽しみ、要望を言いやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々と向き合い会話を楽しんだり、共に身体を動かしたり、時間や空間の共有を積極的に持ち、支援に取り組んでいる。自室に戻られ、新聞を読まれたりテレビを観られたり、静臥される等それぞれの生活リズムを理解し、見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えは、ご本人様が洋服を選び、お化粧をされる等各々のおしゃれを楽しんで頂けるよう支援をしている。希望のない方は、職員と一緒に考え支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや配膳、食後の片付けを職員と共に手伝って下さり、食事中にも会話を楽しみながら召し上がって頂けるように支援をしている。また、誕生日会には、ご本人様のお好きな物をおやつに提供したり、おやつ作りに参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や季節による水分の必要摂取量を把握し、食べやすい大きさにカットしたり、食事量の調節をしたり、必要に応じて食事摂取量や水分チェック表を使用して確認を行う等、一人ひとりの習慣を把握しそれに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや自立度に応じて介助し、歯磨きによる口腔ケアが困難な場合には、口腔ウェットティッシュや歯間ブラシなどを用いて清潔保持に努めている。また、職員の介助でも難を要する方には、定期的に訪問歯科の往診にて口腔ケアをして頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各々の排泄リズムの把握に努めている。時間で声掛け誘導を行い、トイレにて排泄できるよう見守り支援している。夜間も一人ひとりの心身状態に配慮しながら見守り支援を行い、自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取(牛乳・お茶・ヤクルト)の提供を行い、こまめな水分補給してに努めている。毎朝の体操や体を使ったレクへの参加を促し、スムーズな排便のリズムができるよう支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調、各々の心身状態に配慮をしながら、好みの湯温で入浴して頂けるように順番を考え、一対一の介助でゆっくりと入浴して頂けるよう支援をしている。一般浴に入れない方は、ベンチ浴使用にてゆっくりと温まって頂けるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加して頂けるよう声掛けを行い、昼夜逆転せず夜間良眠できるよう努めている。不眠時に居室でお好きなように過ごされている方には、こまめに訪室し安全確認に努めている。また、温かい飲み物の提供や傾聴にも状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員が内容を把握くにと薬確認をしている。薬の変更や臨時薬については、その都度記録に残し、申し送り表の記入も徹底して行い、全職員に周知すると共に、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報や日々の観察から、力を発揮して頂けるよう各々に手伝いをお願いしている。また、喫茶店、外食、外出、日常の散歩、季節の行事等の計画を立て、気分転換を図っている。月に1度の希望献立にも、利用者様の嗜好品などを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常のレクリエーションとして散歩には、多く出掛けられるよう支援に努めている。その他、個別の外出として、買い物や外食(モーニングやお茶)、ドライブ等ご本人様の希望に沿えるよう支援に努めている。また、家族会にて一緒に外出や食事の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望や力に応じて、安心や満足に向けて所持金を持って頂けるようご家族様と相談し、支援をしている。事務所が金銭管理をしている方も、外出時にはご本人様のお金を所持し、本人にお支払いして頂けるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話への対応や親族宛の葉書(年賀状含む)の郵送等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、利用者様に四季の作品を作成して頂いたり、カレンダーに四季の折り紙を貼り、掲示したものを鑑賞している。また、食事を作る音や匂い希望献立でも季節を感じて頂けるメニューを考案し、家庭的雰囲気味わって頂けるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブルの配置に配慮し、快くつろげる環境作りをしている。必要に応じて、席替え等も行い、その都度、配置には配慮している。また、畳のスペースでは、利用者様同士が日向ぼっこをしながら談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、思い出の品等を本人やご家族様と相談しながら持ち込み、配置している。危険が伴う場合には、その都度検討し、居心地良く過ごせるよう支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様が安全な環境で生活が送れるよう、個人の持ち物の配置には配慮し、所定の位置をビニールテープで貼り利用者様ご本人にも分って頂けるようにしたり、歩行時の危険回避の為、すっきりとした収納に配慮している。		